

第4回 出雲市観光戦略会議

1. 開催日時

令和7年(2025)1月29日(水) 14時00分から16時30分

2. 開催場所

ラピタウエディングパレス 孔雀(出雲市今市町)

3. 会議の出席者

(1) 委員(13名)

副会長	錦田 剛志	(万九千社 宮司)
委員	川谷 誠一	(出雲大社 総務部長)
	多々納 真	((株)出西窯 代表取締役)
	福岡 正純	(出雲市商工団体協議会 会長(出雲商工会議所 会頭))
	石飛 硯一郎	((有)小田温泉 代表取締役)
	石原 稔功	(出雲ホテル連絡協議会 会長)
	平井 敦子	((一社)木綿街道振興会 専務理事)
	三島 貴子	(NPO法人スサノオの風 事務局長)
	森 正幸	((株)島根ワイナリー 常務取締役)
	渡部 稔	((有)出雲観光タクシー 代表取締役・ 出雲インバウンド事業推進協議会 会長)
	湯浅 啓史	(出雲市議会 観光戦略推進特別委員会 委員長)
	錦織 宏	(出雲市自治会連合会 会長)
	青戸 崇年	(島根県観光振興課 国際観光推進室 室長)

※欠席者(5名) 田邊 達也会長 今岡 真澄委員、藤江 美由紀委員
野津 昌巳委員 児玉 俊雄委員

(2) アドバイザー

刀根 浩志	(出雲市観光特別顧問)
村木 智裕	(Intheory代表取締役・ 一橋大学MBAホスピタリティマネジメント非常勤講師)
福本 忠宏	(ソニーデザインコンサルティング(株))

(3) 出雲市

井上 夏穂里	(副市長)
神田 圭子	(観光交流部長)
原 哲也	(観光課長)
水 良弘	(観光課主査)
原 育也	(観光課観光政策係長)
濱崎 洋光	(観光課観光振興係長)
高橋 達充	(観光課観光政策係副主任)
立花 祐樹	(観光課観光政策係主事)
岩崎 和人	(インバウンド推進課長)
清水 あゆこ	(インバウンド推進課長補佐)

(4) 出雲観光協会

稲根	克也	(事務局長)
斎藤	謙一	(事務局次長)
長井	洋輔	(事業係長)
古島	尚	(総務係長)

4. 次第

1 開会

2 副市長あいさつ

3 副会長あいさつ

4 議事

(1) 出雲市観光基本計画最終案について

①第3回観光戦略会議以降の変更点 資料1

②パブリックコメントへの対応案について 資料2

(2) 出雲市観光基本計画のコンセプトブック（仮称）作成について 資料3

(3) 観光基本計画の進捗状況の確認・検証について

(4) 今後に向けた意見交換

5 その他

6 閉会

5. 会議内容

1. 開会

事務局

ご案内の時間になりましたので、ただ今から第4回出雲市観光戦略会議を始めます。

本日は、大変お忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

議事に入るまでの進行を務めます。どうぞよろしくお願いいたします。着座にて失礼いたします。

本日出席の委員の皆様につきましては、会長から急遽連絡があり、体調不良ということでご欠席でございます。

お手元に名簿をお配りしております。4名の委員様にご欠席です。

2. 副市長あいさつ

事務局

開会にあたり、副市長から挨拶いたします。

副市長

皆さんこんにちは。

本日は大変ご多忙の中、大変寒い中、オフシーズン対策や最近まで出雲ウィークでお忙しい方も多かったかと思いますが、多数の委員の皆様、そして3名のアドバイザーの先生方においていただきまして、本当にありがとうございます。

会長はご欠席ということで、副会長、どうぞよろしくお願いいたします。

本日最終回を迎えることになり、追加の意見交換会を含めて5回の戦略会議。また、地域の中でも戦略会議をさせていただきまして、率直なご意見、貴重なご意見を多数いただけたと思っています。まさにその通りだということばかりで、私や観光交流部の職員だけではなく、皆様方も同じように思っていることがたくさんあり、本当に実りある議論ができたと思っています。

皆様方の中から生まれたビジョン、基本理念や行動指針をはじめとして、観光戦略が観光基本計画という形になってきたことを本当に嬉しく思っております。

本日は最終回となりますが、最終確認とともに、今後に向けての追加の提案などもさせていただきますので、後半の意見交換で今後に向けたさらなるご意見をいただければと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

3. 副会長あいさつ

事務局

続きまして、委員を代表して副会長にご挨拶をお願いします。

副会長

皆様、改めましてですが、本日は旧正月の元日でございます、あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

直前に会長が体調不良ということで、1日でも早い回復をお祈り申し上げます。

皆様方、お忙しい中こうしてお出かけいただきましてありがとうございます。副市長からもありましたが、いよいよ最終回ということになります。皆様から忌憚のないご意見が反映され、事務局の方も奮闘していただきまして、我ながらと言ってはあれですが、全国的に見ても稀な戦略のビジョンが固まりつつあるなと思っております。本日はその総仕上げということで、皆様方の忌憚のないご意見を建設的にご発言いただきたいと思います。

急遽司会を仰せつかりましたので、至らない点があろうと思いますが、なにとぞご了承くださいたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局

ありがとうございました。本日の配布資料の確認でございますが、本日の配布資料はお手元に次第、名簿、席次表、計画書の最終案、資料1と記載してある第3回戦略会議以降の変更点、資料2と記載してあるパブリックコメントの対応について、資料3と記載してある出雲市観光基本計画コンセプトブック（はじまりの地出雲の物語）以上でございますので、不足等があれば事務局の方へお知らせください。

今回、原則公開で開催いたしますので、資料及び議事録は、会議終了後の市のホームページ等に掲載しますので、ご承知おき願います。

事務局

それでは、議事に移らせていただきます。

ここからの進行は、副会長お願いいたします。

4. 議事

（1）出雲市観光基本計画最終案について

①第3回観光戦略会議以降の変更点（資料1）

副会長

それでは、議事に入ります。お手元のレジュメ（1）出雲市観光基本計画最終案について、1つ目は第3回観光戦略会議以降の変更点、2つ目はパブリックコメントへの対応案について、（2）出雲市観光基本計画のコンセプトブック（仮称）について、事務局より

説明をお願いします。

事務局

(資料 1 について説明)

②パブリックコメントへの対応案について (資料 2)

事務局

(資料 2 について説明)

(2) 出雲市観光基本計画のコンセプトブック (仮称) 作成について (資料 3)

事務局

(資料 3 について説明)

副会長

ありがとうございました。

各委員の皆様には事前に資料も配布され、詳しい説明も事務局から受けていらっしゃると思います。その上で、議事の(1)①第3回観光戦略会議以降の変更点を資料1で説明いただきました。そして、②パブリックコメントへの対応についてを資料2で詳しくご説明いただきました。議事に関連して、コンセプトブックの作成について、副市長から説明がありました。

これを受けまして、委員の皆様よりご意見を頂戴できればと思います。事務局に対する質問、読んでも理解できないことなど、再質問でも結構でございます。挙手にてご発言をお願いしたいと思います。どうしてもこれだけは言っておきたいということ。最終回でございますので、どうぞ遠慮なくお願いいたします。

A 委員

失礼します。お世話になります。

今、さまざまな説明を受けましたが、観光基本計画は本当に素晴らしいものが出来上がったと思っています。この計画を作るにあたり、委員として参加させていただき、意見を述べる機会をいただけたことを、とても感謝しております。

作成中のコンセプトブックですが、とても良い内容だと感じました。よそから来た観光客が知る「出雲」と、私たちが子どもの頃から育つ過程で感じてきた「出雲」には違いがあると感じる場合があります。例えば、神在月の時期について、私は奥出雲出身ですが、「神様が来られる時期はあまり外に出ない方がよい。特に夕方以降は外に出てはいけない」とずっと言われてきました。神様はもっと畏れ多い存在であり、出雲に暮らす人々の中には強い畏敬の念があります。しかし、現在の神在月の様子を見ると、神様が浜から上がってこられるところを、皆がすぐそばで写真を撮っており、私たちが「畏れ多い」と感

じることを平然と行っているように思えます。観光客の行動に対して、住民が違和感を覚えることの中に、出雲特有の感覚があり、出雲に暮らす者はそうした感覚を受け継いでいることが、出雲の魅力を未来へとつなげていくことにつながるのではないかと考えています。

コンセプトブックにも「畏敬の念」という言葉がしっかりと記されており、これによって、出雲の人々が自分たちの暮らす場所についてどのように考えていくべきかが明確になり、とても良いものが作られたと感じています。ありがとうございました。

もう一点ですが、「住んでよし、訪れてよし」の出雲というコンセプトのもと、住民にとっても観光客にとっても良いものとして観光基本計画がまとめられています。私も10年ほど、木綿街道という小さな地域ではありますが、観光地経営の視点でさまざまなことを見てきました。その中で、「住んでいる人にとって良く、観光客にとっても良い」ということは必ず実現しなければならないと考えています。しかし、それを運営する側、例えば木綿街道では振興会、出雲全体では出雲観光協会内のDMOが担うことになりますが、運営する側もまた持続可能でなければなりません。そのため、「住民」「観光客」「運営側」の三者が同時に良い状態であることが求められます。

しかし、振興会もそうですが、「住んでよし、訪れてよし」を実現しようとする、運営側が葛藤を抱えることがあります。先の二者を幸せにしようとする、運営側自身の幸せを後回しにしなければならない。運営側のスタッフも生活があり、彼らの幸福を考えるならば、事業活動をしっかりと行い、待遇を向上させるための収益を確保しなければなりません。三者すべてを満たすことの難しさを、日々痛感しています。

この計画を実行するにあたり、観光協会が事業を運営する中で、振興会も同様に直面する最大の課題は、財源と人的リソースの不足です。ただ単に人手があればよいのではなく、目的を理解し、成果を上げられるスキルや知識を持った人材が不足しているのが現状です。そうした不足分は専門家に依頼することになると思いますが、それにはやはり財源の確保が最も重要になってきます。

パブリックコメントの意見番号5番では、「人員体制を充実できるか、コーディネートできる人材を確保できるか、予算を確保できるかなど、根本的な課題があります。構想倒れになる可能性が大きいと思われます」と書かれていますが、これは非常に懸念される点だと私も考えています。それに対する市の回答として、「観光協会だけで行うのではなく、地域と市と観光協会が協力して進めていきます」とあります。しかし、地域にも財源がなく、人材も不足しているのが現状です。そのため、単に地域に負担を回せば解決するという問題ではなく、特に「住んでよし（住民幸福）」の部分については、本来、市が責任を持つべき領域であると思います。そのため、観光協会への財源補填や予算措置を強くお願いしたいと考えています。

運営する側も非常に厳しい状況であり、自主財源はあるものの、その自主財源で従業員の給与を支払っているのが実情です。したがって、観光協会に対する市の財源確保を、ぜひともお願いしたい。これが出雲観光協会理事としての私の要望です。

地域側としても、一緒に取り組んでいきたいという思いはありますが、どの地域も同様に人も資金も不足しています。こうした現状をお互いに理解しつつ、市・観光協会・地域が一体となって、この計画を実りあるものにしていきたいと考えています。私も全力で取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

副会長

ありがとうございました。

大きく3点お話がありまして、1つはコンセプトブックに対する評価ということで、大変高い評価をA委員の方からなさいました。もう1つは基本計画の中にある文言です。

「住んでよし、訪れてよし」をもう一步踏み込んで、よく言われるところの三方よしであるべきだろうと、それが理想だが、実際は市にも地域にも、受け皿となる、財源とそして人員・人材、その確保に困難が伴っているということのご意見でした。

そのうえで、一体となってこれからも市と地域の住民と観光協会が、一緒になって取り組まなければいけないという大変貴重なご意見をいただきました。これに対して、他の委員の皆様、何か関係する質問、ご意見ございますでしょうか。

無いようですので、ひとまずこのコメントに関して事務局の方から何か回答があればお願いいたします。

事務局

ご意見ありがとうございました。

おっしゃる通りだと思っております。また、コンセプトブックについても、ありがとうございました。

ここにも併記しておりますように、観光協会の組織強化も合わせて図っていきますということで、重々これまでも言われてきたことですので、計画の中にもそうした視点を盛り込んでおりますし、また実際にもそういう方向で進めていきたいと思っております。

承りました。よろしくお願いいたします。

副会長

その他何かございますか。B委員お願いいたします。

B委員

失礼いたします。

私も1点、コンセプトブックについて、本当に素晴らしいものができたと思っております。はじまりの地出雲、日本の方も含めて、神話であったり、古事記というのが、あまり知られていない。実は出雲の日にうらら館で「能と古事記」というイベントを開催して、お越しになった方々の意見で、あまり知らなくてすごく勉強になったというご意見があり、やはり地域に住んでる方々も本当にご存じない方が多いのだと痛感して、もっと伝え

ていかないといけない。

それがこのコンセプトブックであって、1から時系列で現代に向かっている。この構成も非常に分かりやすい。1点、構成途中なので、おそらくお考えの中であつたら申し訳ないのですが、9ページの古の巨大神殿の謎と発見、柱が発見されておりました。中を見ても、現在の出雲大社の建物の写真がなかったので、今の出雲大社は時代を経て、本来こうであつたというのがあると、非常に日本の方や海外の方にもわかりやすいというのを感じたところです。

もう1点、私はぜんざい学会の会長をしまして、目についたのですが、この写真に使われてるのはまさにぜんざいではありますが、出雲ぜんざいということで言いますと、紅白のお餅を使っている。この写真もぜんざいで間違いないんですけども、ぜんざい学会の会長として気になった点です。誤りではないのですが、気づいた点でございます。

コンセプトブックを通じて、観光に携わる方々、当然色々なホテルであつたり店の方々が、こういうものを把握することによって、いらっしゃった方々と語りあつたりして、コミュニケーションが生まれて、人と人との交流が真の観光だと思っています。

地域の受け皿となる、委員の皆様を中心に住んでいる方々にもこういうことを伝えて、日本一の観光地出雲になればと思っております。素晴らしいコンセプトブックです。ありがとうございました。以上で終わります。

副会長

B委員ありがとうございました。

コンセプトブックの高評価は変わらずということでしたが、詳細は未定稿で作成中です。ぜんざいや出雲大社にも配慮をということでした。これから事務局で中身を詰めていかれると思います。

皆さん、どうもありがとうございました。

それでは、先を急ぐようではございますが、続きまして、議事（3）に移ろうと思います。よろしいでしょうか。レジュメの方に戻っていただきますと、（3）観光基本計画の進捗状況の確認・検証についてでございます。

はじめに、事務局より説明をお願いいたします。

（3）観光基本計画の進捗状況の確認・検証について

事務局

（観光基本計画の進捗状況の確認・検証について説明）

副会長

ありがとうございました。

事務局から議事（3）観光基本計画の進捗状況の確認・検証についての説明がありまし

た。

これにつきまして、委員の皆様からご意見を頂戴できればと思います。ご質問でも構いません。この件も、恐れ入りますが、挙手にてお願いしたく存じます。

(意見なし)

副会長

何か事務局から補足等々あれば、この場でお願いしたいと思います。

(補足なし)

副会長

ありがとうございました。

4回にわたって皆様と協議してまいりました。色々ご説明がありました。この観光基本計画の最終案につきまして、我々出雲市観光戦略会議として、承認するという事でよろしいでしょうか。よろしければ拍手を持ってご承認お願いいたします。

(拍手多数)

副会長

拍手多数でございますので、承認いただきました。

先ほども説明がありましたように、今後は、詳細な部分の修正が出てきます。また、調整もそれぞれ出てくると思います。その際に、度々皆様方にお諮りするのには難しいことなので、微細な修正、調整については、恐れ入りますが、本日ご欠席ではございますが会長と、本日司会をいたしました、副会長の方にご一任いただければと存じますが、この件についてもよろしいでしょうか。

(承認)

副会長

よろしいということですので、責任をもって対応させていただこうと思います。ありがとうございました。

(4) 今後に向けた意見交換会

副会長

議事の(4) 今後に向けた意見交換に入ります。

すでにA委員、B委員から貴重なご意見を頂戴いたしました。その他の委員の皆様からも、ご感想や、あるいはそれぞれの立場からこの計画の実現に向けた意気込みや期待感、そういうものもお聞かせいただければ幸いに思います。

本日もまた、どうぞ皆さん方、それぞれの立場で率直なご意見をお寄せいただきたく存じます。今後の計画推進に活かしていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお

願いいたします。

本日は、ご公務の都合もありまして、C委員は途中退席と伺っておりますので、先にご発言をお願いできますでしょうか。その後に恐れ入りますが、D委員の方から順番に3分以内の持ち時間でご意見をいただきたいと思います。D委員から、A委員まで意見をお伺いした後、休憩時間を設けたいと思います。

まずは、C委員よろしく願いいたします。

C委員

お疲れ様でございます。大変良い計画に仕上げていただきまして、ありがとうございます。それから、参加をされているそれぞれの委員の皆さんは、それぞれの立場で色々な意見を据えられたり、また聞き取りに応じられたりと思います。

我々、議会の特別委員会として、本計画に間に合うようにということで、提言書を10月に市長に提出させていただきました。その内容等々をこの計画に十分織り込んでいただきました。本当にありがとうございました。

とはいえ、計画ができた後が大事であって、来年アクションプランを作るということですが、そこでタイムラグが生じないようにお願いをしたいというところ。推進のためには組織づくりが必要であろうし、財源の確保という議論も当然出てくると思っています。その点で、時間が空かないような形で進めていただけるといいと思っています。

それから、コンセプトブックに関しましては委員の皆様がおっしゃったように、大変良いものができたと思っております。先ほど口頭で、まだ続きがあるということでしたので、感心しておりますが、出雲市と交流をしている他地域のことも含めて、その中での出雲市という部分も少しコンセプトブックに加えていただけるといいなと思います。具体的にはかみがりネットワークという形で、糸魚川や諏訪などと、神話の繋がりがあるところと交流しておりました。奈良県桜井市では大神神社など、色々と神話との繋がりがあるところと思います。また、香川県の琴平町と交流をしています。題材には事欠かないと思います。

そういった各地にある色々な歴史との繋がりの中で、さらに出雲というのがコンセプトブックの中に置かれていると非常にいいなと思います。ぜひ続きを作っていただきたいと思います。

最後に先般、約1週間前、フランス、ベルギーの行政担当の方々が出雲にいらっしまし、私も懇談会に参加させていただきました。その方々が口々におっしゃっていたのは、本物に触れたいということ、オーセンティックなものに触れたいということをおっしゃられていた。

その中で、ある方がおっしゃっていたのは、東京、大阪、京都、広島というゴールデンルートと言われるものとは別のゴールデンルートを本物志向で作っていただきたいと思いますというようにお話もいただいたところです。

先ほど申しあげましたような色々な地域との交流を絡めながら、そういった繋がりの中でまた出雲市が位置づけられると非常に良いなと思っております。ぜひよろしく願

いします。以上でございます。

副会長

ありがとうございました。

それでは続きまして、D 委員よろしく願いいたします。

D 委員

副会長の方から 3 分以内と言われると、まとめようがないのですが、まずは、コンセプトブック、大変立派なものができていると思います。B 委員の指摘で一部使用画像の問題もあるのですが、大変素晴らしいものだと思います。

また、先ほど C 委員からお話がありました、神社ですので発言させていただきますと、大神神社、また、香川県の金刀比羅宮神々の繋がりもありますが、この中では、食の繋がりも今繋がっているところでございます。そういったものも活かしていただければと思っております。

また、皆様の最初のお話で、1 月 26 日「出雲の日」を 1 月 25 日から 1 週間「出雲ウィーク」ということで、先日 25 日、26 日、「出雲の日」は 6 年前から始まりまして、5 年前からは夜神楽特別祈祷と、私も 2 度奉仕いたしました。

昨年は計画の中にインバウンドというものを取り入れられまして、日本以外の方からも参加いただきました。「出雲ウィーク」では、出雲大社八足門内特別参拝の計画を立てまして、25 日から午前 1 回、午後 1 回、多い時には 30 人以上の方に参加いただいております。

「出雲の日」を作り上げたのは、思いつきです。1 月 26 日も語呂合わせです。ただ、1 番この「出雲の日」で何がしたかったか、今でもしているのかというのは、継続して考えるのは、出雲の中から外に向かって作った「出雲の日」ではないということを大切にしたいと思っています。

なぜかという、出雲そのものを、出雲に住んでいる者が全く知らない。出雲って一体どんなところなのか、それを理解していないから楽しくないのだと。それなのに県外の方はたくさんこの出雲へお越しになる。何か魅力があるんでしょうね。ただ、私たちは昔から出雲に住んでいるから、出雲は神々の国で神様がたくさんいて、それを自然のことと考えて、出雲人が出雲を楽しむためには、ということで「出雲の日」が作られてきた。

お宮におりますと、何々祭などそれに伴う行事で神楽という表現をすると問い合わせの電話があります。「何々祭って見れるんですか」「神楽って楽しいですか」神楽という表現はしますけど、副会長もおられますけど、神話の神社神楽もありますが、祈祷することを神楽といいます。何も楽しいことではないですが、そういう皆さんは楽しいと思っていちゃる。

コンセプトブックを見ても落ち着いた感じで、この出雲には派手派手しさがありません。ですが、そこの魅力を発信していきたい。派手派手しくないものをどう発信する

かというところ。私は神社に奉仕していて、非常にこんなことを言うと失礼かもしれませんが、この「出雲ウィーク」でも言いますが、出雲の国って神様たくさんいらっしゃるんですよ。神話の話をしようと思えば、神職なのでいくらでもさせていただきますが、神様を感じてもらうのに1つ取り入れたのが、「神様って非常に今疲れてるんです」と皆様にお伝えしました。なぜなら年間700万人ぐらいの方がお越しになる。たった1人の神様が願いを聞いているわけです。神様を大切にする方法として、お祭りがあって、地元の皆さんには、「氏神様に手を合わせることによって神様の疲れが癒されますよ」というような、色々な話をして差し上げる。

本日会長はいらっしゃいませんが、今年1番嬉しかったのは、1月26日の出雲の日祈願祭の後、勢溜でイベントがあり、賑わいがありました。そこで小ぶりの雨が降ってきて、会長と私はテントの中にいたんですね。するとそこに、小さいお子さん2人を連れた夫婦の方が近寄ってこられまして、その方々はその前の日に夜神楽祈祷をお受けになって、そこで神様のお話をした。すると、お子さんが、「神主さん、昨日はお話ありがとうございます。楽しかったです。」と言ってくれた。会長はとても嬉しそうな顔をしていた。私もとても嬉しかった。小さい子供に神様を感じてもらえた。

出雲大社の出会いというのは幸せとご縁です。1度に30人、40人、50人の方を相手にお話をさせていただきますが、受けていらっしゃる方は1人1人、これを観光に変えて考えていいのかですが、そこが難しいところだと思います。1度だけの旅行で嫌な思い出があったら2度と来ません。

ここで何が言いたいかというと、色々なことが考えられますが、いい思い出を作ってもらうにはそれなりのお金が必要です。事務的なことを言うと大変失礼ですが、先ほどA委員の話の中にも財源ということがありましたが、そういった面ではこれから、市全体の課題として考える必要があります。渋滞対策などの課題もあるが、とにかくいい思い出を作って、もう1度、2度、3度来てもらえる出雲にしていきたいと思っているのが、私の考えです。まとまりのない話で申し訳ございません。

副会長

ありがとうございました。生々しい話でございました。

後ほどまたコメントを事務局の方からもいただこうと思います。先を急ぐようで申し訳ないですが、続きまして、E委員お願いいたします。

E委員

1つは、コンセプトブックは、販売されるのでしょうか。すごく良いと思います。

今回、同時に斐川町の地域戦略会議にも参加させていただきました。率直に、以前は斐川町の観光協会にも入っていましたが、小さい会議にはもう出ないようになりました。久しぶりに斐川町でどんなことをすればいいだろうか、斐川町の観光をみんなで考えようかということが、今年そういう場を作っていただいて非常にありがたかったと思って

おります。

この地域戦略会議、これからという話がございましてぜひそういうことを、それぞれの地域で、我々が、観光ってどういう風にお客様におもてなしをするのか、どうやって人を呼んでくるのかということも含めて、そういう場をこれから作っていただくことは非常にありがたいと思いますし、もっと若い人たちも含めて、そういう会がこれから数年続くといいなと思います。ものすごい予算ではなくても、そういうところに多少予算を立てていただければ非常にありがたいと思っております。

地域戦略会議では、斐川町の場合、商工会を会場として会議をしたんですけど、商工会の中にも観光部会というのがあって、重ねてそういう人たちもいました。と言いながら、商工会の各部会は非常に予算がわずかしかなないというところで、もう少し協力しながらそういうことができればいいなと、予算も多少あればいいなと率直に思いました。

地域戦略会議があることで、町で一緒に考えるという場ができたということは非常にありがたかったし、これからの方向性は継続して行ってほしいというお願いをしたいと思っております。以上です。

副会長

ありがとうございました。

議論の場の継続ということ、今強調されたところでございました。ありがとうございました。

続きまして、F委員よろしく願いいたします。

F委員

失礼いたします。よろしくお願いいたします。

まず、コンセプトブックですが、見させていただいて、なんとなく出雲はすごく恵まれたところだというのはずっと感じていましたが、こうして時系列というか、1つの流れに沿って、ピックアップしてあるものを通して読ませていただいて、よりはっきり認識することができました。本当に面白い作りで、いいものができそうだなと思っております。

同時にインナーブランディングということになると、出雲市民の皆さんにどうやってコンセプトブックを共有してもらえるようにしていくか、場づくりが同時に必要になってくるかと思います。我々もそれぞれ4つの団体がありますので、できれば会員さんに伝えられるような場が作れたらという風に思っております。どれぐらいの部数作られるかわかりませんが、活用させてもらいたいと思います。

個人的な発言で申し訳ないですが、危惧しているところがあります。色々なイベントがあります。イベントが順次増えていくばかりなのかなと感じています。市のいろんな関係で行政同士の交流、中でもイベント絡みのものも必ずあるかと思いますが、先ほどからお話があるように、人材や財源が大事になる中で、今まで通りのものを全部継続してその上に乗っけていくことが、この先可能かどうかを大変危惧しています。場合によってはもう

少し数を減らす必要があると感じているところです。僕も持ち込んだ側なので、あまり大きなことは言えないですが、スリム化する作業がどこかでできたらいいなと思っているところです。以上です。ありがとうございました。

副会長

ありがとうございました。F 委員からも貴重なご意見いただきました。

コンセプトブックの内容を市民の方へ共有する場面づくりの方法や共有する場づくりという話。

出雲市では様々なイベントや行事がありますが、選択と集中をした方がいいのではないかと、そういう観点も必要ではないかというご見解ではなかったかなと思います。ありがとうございました。

続きまして、G 委員お願いいたします。

G 委員

この観光基本計画、向こう 5 年の計画がほぼ出来上がって、本当に多くの英知と心のこもった計画ができたのではないかと思います。

これからは、先ほどもご発言ありましたが、具体的に実行していくということで、やはり 5 年のうちに色々な部分で成果を上げていく必要があるのかなと思いますし、それが自明の理なので、当然そうすべきことなのだと思います。

例えば、先ほどの中で宿泊機能の強化という項目があり、新規出店者への引き続き拡大に向けた支援という文言がありましたが、もちろんキャパを増やす、出雲市の宿泊客数を増やすことにおいては大変重要な観点かと思われそうですが、長く続けていらっしゃる事業者への支援、そういった部分も引き続きお願いできればありがたいことかなと考えております。

先ほどお話ありましたが、神様がお住まいになられているこの出雲というのは、私は県外から参りましたけれども、全国的に見ても重要な土地ではないかと思っております。そういったところにますます、今まで以上に光が当たって多くの方が来てくださるということは、事業的にも嬉しいことでもあります。同時に、その人々にとっても出雲に来ることが楽しいし、思い出深い、いいところに来たんだなと思ってもらえる機会が生まれると思いますので、是非ともこの計画を愚直に進めていただけたらいいし、我々も観光事業者ですので、一緒になってさせていただければいいなと思っております。

最後ですが、コンセプトブック、出雲市民に向けた設定でお作りになっていらっしゃるというのが最初のお話かと思いますが、観光客の皆様へも十分に伝わる良い内容じゃないかなと思っています。私は多伎の小田に住んでいるので、くにびき神話の地図の部分で少し思ったのですが、縄がもう少し左側でもいいのではないかと考えた次第です。夕日が見える道路もありますし、私の拙い知識ですと、小田の下あたりに杭を打って縄を引いたというのを聞いた記憶があるので、気持ち左に動かしていただくといいかなという小

さな感想を寄せて終わりたいと思います。引き続きよろしくお願いいたします。

副会長

ありがとうございました。コンセプトブックが大変好評で、そこに様々な意見があるというのは、それだけ皆さんが注目してらっしゃるということなので、事務局の方も励みにしていただきたいと思います。

H 委員よろしくお願いいたします。

H 委員

「出雲ウィーク」を開催していることを知っている市民の方がいないとパブリックコメントに書いてあって、外側だけではなく、市民の方に「出雲ウィーク」のことを知ってもらうようにしてほしい。たまたまそういう時期だったので所感を言わせていただきました。

本日でこの観光戦略会議も終了ということで、私も色々な観光の会議に出てきたのですが、この会議はレベルが高いというか、何回計画書を見直してもわからないことがあったりして、観光というのは幅が広くて、簡単そうに見えて難しいなという感じがいつもしております。

現在、閑散期ということで、今の稼働率は 50% ぐらいですが、繁忙期の時期は今年、去年共に 95% ぐらいの稼働率。出雲大社のお祭りの時期は出雲・松江の宿泊は全く取れない期間で、去年は 12 月 15 日（土）まで稼働率が 85% と高かったですが、ピッタリと止まり、毎年のことですが稼働率がカタッと落ちました。それが 2 月いっぱいまで続くということで、2 月の終わりには大学の受験がありまして、全国から大学受験で満室になる期間が 2 日間くらいあります。冬季というのは難しい面があって、ホテル協議会でも、今まで他の県にお客様の集客のお願いに行ったり、食のプランを作ったりしたのですが、難しい面がありました。例えば繁忙期が 1 年間続いていたら、現場が疲れてしまうので逆に閑散期が必要なのかなと思ったりもします。

繁忙期にタクシーは無かったのですが、今は閑散期でタクシーは動いている状態です。私たちは行政任せにせずに、民間も一緒に色々な方法を考えながら、オール出雲で観光の方はやっていかないといけないと思いましたので、この会を契機に少しでもお客様においでいただくようにやっていきたいと思います。ありがとうございました。

副会長

H 委員ありがとうございました。皆さんと共通してますが、やはり地域の方や市民の人がもっと深く知っていることが大切だということ。それと今もおっしゃったように、官民あげてこれからも取り組んでいきたいと、頼もしいご意見いただきましてありがとうございました。

A 委員もし何かあればよろしくお願いいたします。

A 委員

先ほど E 委員もおっしゃいましたが、平田地域の地域戦略会議で、様々な事業者の方々と観光について話し合う機会があり、とても良かったです。観光客や外国人が自分たちの商売の相手になるという感覚を持っていなかった方もおられましたが、そうした方々が「自分たちも観光に関われるのではないか」と感じられたことが、この会議の大きな成果だったと思っています。

また、地域戦略会議では、何も予算を持たずに話し合うよりも、ある程度使える財源があったほうが良いのではないかとこの感覚を持っています。一律に配るのではなく、良い企画が出てきたときに活用できる仕組みがあれば、参加者の意欲も高まり、より良い意見が出てくるのではないかと感じています。

コンセプトブックを拝見して改めて思ったのですが、例えば、たたら製鉄との関係や国引き神話など、出雲市の中だけではすべての魅力を十分に伝えきれない部分があると感じています。そのため、奥出雲など周辺地域と連携しながらツアーを企画・調整していくことや、「出雲市」という枠にこだわらず、出雲を起点に周辺市町村へ広がるツアーを造成していくことが重要だと思っています。

木綿街道でも、次年度は奥出雲町と連携し、たたら製鉄から木綿街道までを斐伊川経由でつなぐツアーを企画したいと考えておりますので、ぜひご協力いただけますと幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

副会長

ありがとうございました。前半で7名の方のご意見を承りました。皆様真摯にご発言いただきまして、大変感謝しております。

上手くまとめられませんが、いくつか要点を絞るならば、この計画ができた後の実際に次のアクションプランに向けての空白を生じないようにということが1つ大きなポイントであろうと、そのためにも、こうした議論の場が、この戦略会議のコンパクト化されたものでも良いし、また地域の観光戦略の会議でも良いし、継続的にこうした場を作ってもらいたいという意見が多かったように思います。

また、出雲だけを見ていくのも大事だが、他地域との交流、交渉も極めて大切な視点ではないかというご意見が多かったように思います。

そして、何よりも市民の方がもっと出雲を知る機会を作っていくべき。それがひいては観光振興につながるというご意見だったように思います。

皆さん口々に言われるように、こうした計画が実現するために、やっぱり財源の確保、人材の確保が必要だということを皆さん方口々におっしゃっていると受け止めました。私としてはひとまずのまとめとさせていただきます。

これまでのところで事務局から何かコメントや回答があればお願いいたします。

事務局

皆さん、本当に貴重なご意見ありがとうございました。

半分のところで、もう感無量になっておりますが、すべてではないですが、コメントさせていただければと思います。

「出雲の日」を市民に出雲を知ってもらうために始めたということについて、改めて再認識させていただきまして、今年かなり広がりが出て本当に嬉しく思っているところです。これを是非皆さんと再認識して広げていきたいと改めて思いました。

財源の点について、皆様から言われておりますが、その検討は本当に優先順位を高くしてやっていかないといけないと思っております。進めるにあたっては課題や丁寧なご説明だったり、色々なことが出てくるかと思っておりますので、引き続き何らかの形で皆様方にもご理解をいただく面があるかと思っております。どうぞよろしくお願いします。

地域戦略会議につきまして、今年度、各地域で2回やらせていただきまして、初めての試みでございましたので、なかなかうまく進行できなかったり、煮詰まらなかったり、様々なことをお感じになったことと思っておりますが、本日、E委員とA委員からそういう場があってよかったと言っていて、本当に嬉しく思っております。今年度はとりあえず2回やってみたということで良かったと思うのですが、このままの感じで進めても進みづらい面があると思っており、どのようにうまく続けられるようにしていくのか、予算の確保も含めて、この会議が終わったら本格的にそちらを始めようと思っておりますので、少しお待ちください。引き続きよろしくお願いいたします。

現在、色々なイベントが乱立しているというような話がありまして、最後に言おうかと思っていたところですが、今このような形で方向性を皆さんと共有できて、観光協会の職員や観光交流部の職員、もちろん皆様方それぞれの事業者においても、進めていこうという気持ちになっていただいているかと思うのですが、現在やっていることがたくさんあり、手一杯になっている部分も多々あると思っております。財源確保できた暁には、人材の拡充ということもあるんですが、やはりそこに手をつけていかないといけないと認識しております。

具体的にということになると、やはり、それぞれの思いなどが出てくる場面もあると思っております。すぐにいけるものが何なのかというのは未知数で、計画の中にも棚卸しをしながらアクションプランを作っていきますということを書いておりますが、そういった曲面も今後出てくると思っておりますので、F委員からご意見いただいたのですが、まさにその通りだと思っております。

コンセプトブックについて、本日どのように皆さん受け止めていただけるのかは全然わからなかったのですが、今後の活用方法は、まだ何も考えてない状況でございます。まだ半分ですが、非常に皆さん良いのではないかとことを言っていて、やってよかったなと思っております。

これをどう今後活用するかについては、引き続き有識者のご意見をいただきながら、うまく活用していきたいと思っております。買取もしていただけるとありがたい話で、有料か

どうかも不明です。すみません。

市町を超えた、他地域との交流について、今出雲ってことだけでやっていますが、そこがベースですので、他の地域とのつながりもやりだせばキリがないほど素材があるので、どんどん手をつけていきたいところではありますが、まずはベースから少しずつ具体化していかないといけないので、進めていきたいと思っています。それぞれの事業者さんの中での取り組みとかもどんどんやっていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

副会長

副市長ありがとうございます。

コンセプトブックについては大変皆さんの高評価があって期待も大きいと思いますので、ぜひよろしくお願いいたしますと思っています。

ここで5分間の休憩を設けたいと思います。

休憩後はI委員から順番にご意見を頂戴したいと思います。

—休憩—

副会長

再開いたします。

I委員からJ委員、B委員、K委員、L委員の順番で持ち時間3分でよろしくお願いいたします。

I委員

やっとですね、この長きにわたるドキドキする会議、緊張から解かれるということで、ほっとしています。本当に貴重な機会をくださり、ありがとうございました。

私がこの会議に呼ばれた使命は、こういった立場で、よそ者として俯瞰して意見を申しあげることができるかなということで呼ばれたのではないかなと。

大きな宿命を背負うことになるかわからないですが、出雲のことを愛する皆様、ハートフルで、エキサイティングな会議であったと思っています。本当にありがとうございました。私からは本当に簡単に申しあげたいと思います。

コンセプトブック、すごく良いと思います。好きです。私の好きなこととして、旅行の際に飛行機に乗るとJALの冊子があり、日本語のページは見ずに、最初に開くのが裏面の英語で書かれている、地域の写真が載っているページを見ます。それは日本の方から見た視点ではなく、海外受けする写真が載っていたりします。「知っている地域でもこういった場所があるんだ」とすごくワクワクして、その地域に興味を持つのですが、ぜひコンセプトブックを県外の方にも発信していただきたいなと思いました。

基本計画も非常にビジュアルが良いということで、写真にすごくこだわって作られた

なと思いました。1 番は、自分が行ったことないところの写真を見て、自分が何をして過
ごすかイメージが湧くというか、そういったものが大切だと思っています。これが有名だ
から、あれがあるから、何々が美味しいからというのものもあるかもしれないですが、今は心
のゆとりみたいなのを皆さん求めておられたりとか、海外の方もただの田んぼのあぜ道
を歩くだけが楽しいみたいな方もいらっしゃるので、ここにいて自分は何を考えるんだ
ろうという想像ができるビジュアルはすごく良いなと思いました。この基本計画の方も
読み応えもあってすごく楽しいですし、地域の方に多く読んでいただきたいと思います。

コンセプトブックと計画書を、今からどうやって広めるかというところですが、動画に
して多くの方の目に触れるということも大事ななと思います。私、普段テレビを見ないので
すが、ビジュアルだけでもテレビのCMとして流すのは非常に有効なのかなと思いまし
た。

綺麗なところだけではなく、神話などのおどろおどろしいのであったり、異界につなが
る聖地というのはすごくいいなと思ひまして、こういったミステリアスな部分は惹かれ
るものがあるので、本当にすごく良いなと思いました。本当に素晴らしい機会をいただき
まして、ありがとうございました。

私は佐田に住んでおり、地域戦略会議の方も開いていただきまして、やはり私がここに
呼ばれた使命、意味があるのかなと思っておりますので、今後、地域の方でも真剣に観光
の方に取り組んでいけたらと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

J 委員

失礼します。よろしくお願いいたします。

第 1 回から 5 回ということで、全部参加させていただきまして、私は勝手なことばか
り言わせてもらって、大変失礼いたしました。

基本計画書について、本当に素晴らしいものだと思って、皆さんで作られた努力に感
謝いたします。

皆さんが言っておられたコンセプトブックについて、これも本当に素晴らしいものだ
と思います。我々地元の人間が見ても、素晴らしいものだと思いますので、ぜひいいもの
をお作りいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

私がまたいけないことを言うかもしれませんが、こうやって良いものを作って、これ
が終わりではないので、これからがスタートだと思います。この計画をどうやって活かし
ていって、出雲の観光を盛り上げていくか、1 番かかってくるのはこの計画をどうやって
実行に移すか。実行したことに対して、検証していき、良いものは進めていく。もし、違
うとなれば進め方を変えていく、現場のあり方、これが 1 番大きくなっていくのかなと思
っており、これからのことですので、よろしくしたいと思います。

それともう 1 点、第 3 回でも意見として言わせていただいたのですが、こうやって戦
略会議があって、皆さんこれを進めていく中で、他の観光の団体があります。商工会や県

の観光連盟、この辺りと一緒になってやっていくことも必要だと思います。出雲市さえよければということは全くないと思います。

観光でいらっしゃるお客様は、島根県は遠いところなのでなかなか来れません。出雲市だけ立ち寄って帰るなんてことはほとんどないと思います。松江や米子、宍道湖の観光の会もごさいます。そこと一体となって、島根の良さを皆さんに紹介して、お客様に来ていただいて喜んでいただく。

出雲だけで話をしていると、おっしゃる通り出雲も大切、自分のことは大切です。私ももちろん努力をしておりますがそれだけではだめです。山陰全体を売っていらっしゃるっていただいて喜んでいただく。その中でも、出雲市は最高だと言ってもらい、出雲を観光していただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。どうもありがとうございました。

副会長

I 委員、J 委員ありがとうございました。やはり計画書とコンセプトブックにつきましては、I 委員共どもにご好評いただいているようですが、第2回と重なりますが、実行性の問題や検証、見直しということが非常に大事なこととおっしゃっておられます。

山陰両県あげて、関係機関との連携が大切ということ。それがないと多分裸の王様になってしまうと思ってしまうと存じます。ありがとうございました。

B 委員よろしくお願いします。

B 委員

ありがとうございます。3分ということでストップウォッチをつけさせていただきます。何点かありましたが、端折って話します。

「出雲の日」について、話題がでましたが、私も出雲二中、三中に講演に行っており、去年は出雲市長と大社中学校と浜山中学校に講演に行きました。その時にクイズを出しました。1月26日は何の日ですかと聞くのですが、本当に知らない方が多い。300人いて5,6人しか手をあげない。大社は多少多かったですが。家に帰って1月26日は出雲の日だよと、お父さん、お母さんに伝えてねという風に言います。色々な積み重ねが広がっていくのではないかと考えております。

公共交通について、今回出雲観光タクシーと、出雲インバウンド事業推進協議会の立場で出ているのですが、公共交通について、本当にご迷惑をかけておりまして、観光目線、それから公共交通や地元の方、観光に携わる皆様と一緒に取組まないと、根本的な我々事業者の人材不足とか色々な形はあるが、今ある台数でいかに効率よく人を運ぶかという時に来てるのではないかと思いますので、それも調べていきたいと思います。

インバウンド事業を、今やっていると本気になって、出雲市とやりましょうというように、この基本計画の中で、先ほどお金の問題もありましたが、色々なことをやるにはお金がいるので、やはり最初の取り組みであったり、その辺りは予算をつけていただい

てやっていただきたいと思います。

今私が取り組んでいる中でお話してみますと、昨年 6 月にフランスの方に行ってプロモーションしてきたのですが、昨年の 10 月、11 月にお越しいただきました。今度は 2 月 15 日にトゥーロンという市から高校生 30 名と保護者の方 25 名で、15 日 16 日に大阪へ移動されますが、プチ修学旅行で訪れていただきます。

この時に、出雲の神話や出雲民芸、茶道とか、そういったものを体験して、2 月 23 日からフランスの方に行く予定がありまして、2 月 25 日にリモージュという、陶芸の町、13 万都市の市長とフランスの観光協会の会長にお会いするセッティングをしております。この観光を通じた交流ができないかというのを向こうの市長さんの方からお話があったようで、これはまだ、オフィシャルに決まったことではないのですが、とりあえず伺って、お話を伺いながら、今後、市としてのスタンスもございますので、何かの可能性あるかなということで行ってまいります。

その後フランスのパリにも行って、旅行博に近いものがあるようなので、それに一緒に行って PR しましょうと、さらにそこでうまく話になると、このリモージュ市の市長がフランスの市長会の会長をされていて、全市長が集まる会議が夏以降にあるようでございます。そこに出雲市の市長を招いてスピーチの機会を与えたり、出雲の PR の機会を与えてくださるようなお話が今あります。

出雲市を飛び越えて勝手に動いて申し訳ないですが、こういう会議で情報共有をしながら、ここにいらっしゃるメンバーで一緒に行ってもいいという方がいらっしゃれば、夏以降に機会があれば行ければと思っています。すみません早口で、以上でございます。

副会長

ありがとうございました。改めて、「出雲の日」の地元への周知の話。それから、特にインバウンド事業については財源を確保しながらさらに取り組みを推進していきたいと、また自らも率先していくんだという意気込みをお話いただきました。ありがとうございました。

K 委員よろしく願いいたします。

K 委員

失礼いたします。

先ほど立派な基本計画ができて、本当に感謝しているところでございます。新しいものですと、DMO を中心とした、そういったものを構築しているというのもありましたし、全体的には、地域全体でこの観光事業を盛り上げていこうというような話であったと思います。私は観光に直接携わることはないのですが、皆さんの熱心な議論を見ていて本当に大変勉強になりました。

これから実践的なものが、アクションプランが出来上がると思いますが、先ほどありま

したように、そこに暮らしてる人が出雲の良さを知らないといけないし、歴史などをちゃんと知っておくべきだと。そこで堂々と暮らしていくということは、そこがやはり根本になければいけないと感じたところでございます。

今後、私どもにできることはどんなことかを感じながら、これからも暮らしていきたいと思っております。どうもありがとうございます。

副会長

K 委員ありがとうございます。地元住民の代表として、自治会の立場を十分踏まえたご意見で、住民が知ることの大切さを改めて認識いたしました。

堂々と暮らしていくということ、とても誇り高い生き方に繋がり、また観光のもう1つの側面だと改めて印象を持ちました。

それでは、大とりになりますが、L 委員よろしく願いいたします。

L 委員

毎回最後になってしまって、どうかなと思いつながらお話をさせていただきます。

まず、この基本計画、本日見せていただいたコンセプトブック、非常にこれは労力をかけて考えて作られたものだという認識でおりまして、まずは出雲市の事務局の皆さん、副市長をはじめ、相当ご苦勞の中、ここまで進められたのだというのを実感しております。本当にお疲れ様でした。

間違はなくこの地は、そこを抜きにして、立たない地であって、これが全国にも世界にも誇れる地だと、私も信じておりまして、当然来ていただく方もそこに魅力を感じて来ていただく。住んでいる我々もそこに、良さをしっかりと知った上でこの観光の取り組みを進めていければと思っております。

この出雲の地域というのは、色々な地域を取り巻く環境は厳しいことありますが、こういう観光という側面、人に訪れていただけるという側面があるということ、この出雲市明るい未来の兆しが見通せる地域だと認識しておりますし、県の観光振興課の立場としても、精一杯、一緒に取り組みを進めていければなという風に思ってます。

また、J 委員から連携の話をいただきましたが、これは当然、島根県としてもたくさんあり、インバウンド機構もありますし、他のDMO、中海・宍道湖・大山圏域観光局であったり、ブランディングがありますので、県の方にもいただいた意見として、観光連盟も当然、一緒に進めていければと考えております。

5回の会議を通じて、実は色々な会議に参加させていただいていますが、これだけ熱心な議論、色々な意見をいただける会議はあまりなくて、3分という時間を言われましたが、誰も聞かれないという、私も聞いてないのかもしれないですが、素晴らしい会議だなど、それぞれ思いを持っていらっしゃって、なんとかこの地域を良くしていこう、観光を進めていこうというような皆様でございますので、今回最終回ということでお知らせをいただいておりますが、来年度も続けていかれるということ、そのフォローアップということ

でやっていきますので、また引き続き、こうした皆様のお力が本当に非常に大きいと思っております。実際にこの会議に参加し、繋げていただいたご縁で、今既に進みだしているような取組もあります。ここがスタートですので、この計画の目標が達成されていくように、精一杯の連携をさせていただいて、この折角の機会を活かして、県としても取り組んでいきたいと思っております。大変ありがとうございました。

副会長

I 委員ありがとうございました。大変貴重なご意見をいただきました。

この出雲の地ならではの神話や神社そういった信仰、精神世界は欠かせないものだというご意見、頼もしく感じてお聞きいたしました。

地域を取り囲む環境、県内色々ありますが、出雲はこうして観光で人が呼び込めると、大変明るい地域で、明るい要素がたくさんあるというお話も、我々にとっては大変励みになりました。どうぞ、出雲第一主義とは申しませんが、今後ともよろしく願いいいたします。ありがとうございました。

皆さんから貴重なご意見をいただきました。後半の皆様のご意見に対して、何か事務局の方からコメントがありますでしょうか。

事務局

すみません。簡単に少しだけコメントさせていただきます。

I 委員、計画のデザイン等についてありがとうございます。今回、棚に埋もれない計画書を作りたくて、何かやり始めると色々なことを忘れていくのですが、いつでも振り返って思い出せたりとか、ビジョンとして心の中の拠り所になるようなものにしたいという思いはありました。そういった中で、写真の選定はすごく大事だと思っております。細かい話のように思えるかもしれませんが、1つ1つのフォントの選択、余白の有無であったりとか、色々なことが、イラストとかもそうですが、やっぱり共感してもらうものは、そういう面もとても大事だと思っております。

実は最後に少しご紹介しようと思っていたのですが、今回、この計画書のデザインや構成につきましては、委託事業者のメンバーの方々にご尽力いただきまして、事務局としては本当大変感謝している次第でございますので、ありがとうございました。

デザインについても、地域の島根県の事業者と一緒に作ってきたわけですし、この中の写真等も、地域のデザイン事務所の方に取っていただいたものもあれば、地域で活躍されている写真家さんのものもあれば、著名な方に撮っていただいたものも色々ありますが、そういったことも今後の様々な見解においても、こういったことを重視していくことが必要と思っております。

例えば、「出雲の日」「出雲ウィーク」を広げようということ1つにおいても、見せ方や、伝え方ということも、本日そこにお気持ちがあるということがわかりましたので、より一層、市民の方に広く知ってもらえる取組になるように、市全体で、色々やれたらいいなど

思ったところでありました。

実行性の確保と検証をしていくということ、広域団体との連携、非常に力強いお言葉をいただきましたので、コミュニケーションをしっかりと日常的に取れるような関係になってこれたと思っておりますので、進めていきたいと思ひますし、交通関係につきましては、この会議の場でも何回かそういった話題もあつたのですが、先般、タクシー事業者へのアンケート、ホテル協議会のメンバーへのアンケート等をさせていただいて、タクシーの不足状況、オンシーズンにおける実態を少し調べることを開始したところでございます。

言われているだけではなく、数字が目の前に現れると本当に足りないんだなということが、誰の目にもやっぱり明らかな状況ではございました。本当に1番ピークの時の話ではあります。

そういったところも、先ほど皆様方からもお話ありました通り、市と行政と民間の方々と、みんなで解決、改善に向けて動いていきたいと思ひております。

地域の住民の方々のご参画やご理解、ご協力もそうですし、今の暮らしを引き継いでいくというようなことや、色々な知識を引き継いでいくようなことも、本当にこの根底になるものだと思いますので、コミュニティセンターや色々な地域の集まりなど、そういった場面で連携していくこともあるのではないかと、地域を知る機会も、地域で設けていただいているところも多いと思ひますので、市でやっている講座だったりとか、色々なものをどんどん盛り込んでいって、暮らしている人たちにも届くような取組が展開できればいいなと思ひております。以上です。

副会長

ありがとうございました。委員の皆様も心残りはございませんでしょうか。よろしいですか。ご意見ありがとうございます。本当に率直なご意見をいただきまして、あっという間に時間が迫ってまいりました。

これまでご参加と、それからご協力、またご支援いただきました。お忙しい中お出かけいただきましたアドバイザーの皆様には、会長不在ではございますが、副会長また、委員から心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

本日の最終案につきまして、ぜひ観光のご専門の見地から、再度、ご助言や今後の進め方についてご意見を賜りたく存じます。恐れ入りますが、Aアドバイザーより順番に今回は4分以内の持ち時間で1つお願いをいたします。

本日4時半の終了予定ですが、時間が延長するようでしたら、10分15分の延長を考えておりますので、ご予約のある方は途中退席なさって結構でございますので、ご承知願ひたいと思ひます。それでは、4分以内によりしくお願いいたします。

Aアドバイザー

1分をありがとうございます。委員の皆様ありがとうございます。事務局の皆様、資

料を作ってくださいありがとうございました。ということで、少し俯瞰的な目線でお伝えしたいと思います。

観光基本計画というのは、我々シティデザインと言うのですが、街のカタログのようなところであり、それも綺麗に作るのではなくて、誰がどうやってそれを仕上げていくかというところに重きを置いています。そういった意味からすると、地域外の人からよく言われるのですが、出雲はアートですねと。それは建物外観ではなくて、内容、中身、精神文化そのものがアートですとよく聞きます。そういったものがこの計画の中に盛り込まれていくのかなという感じがします。

特にその中で強く感じるのは、リスペクトを感じてもらえるかどうかが重要で、ここに市民の人のプライドが込められているか、そんなことをよく拝見しながら中身を見ておりました。

この計画の根本には、私は昨年、出雲にふさわしいDMO事業を進めるために提案させてもらったのですが、まずは観光協会が日頃は会員さんに向けた業務が主でして、つまり内向きの業務がたくさんあると。それを一気に外向きの業務に変えるためには、まずは地元の皆様の協力それから会員の皆さんの協力が必要、そんな話をさせていただきました。

その上で、観光協会がこれから顧客目線で、将来自走化していくためにこんなロードマップがいいのではないですかという、そんな話をさせていただいて、それもこの計画に組み込まれている、そんなことを感じました。

基本的に観光は、観光地経営を含めてですが、人づくりなんです。観光そのものは町の生きざまですし、町のプライドそのものが観光ですので、そこに、今回の出雲市におきましては、出雲力アップというところが目標になればならないのかなと感じながらお聞きしました。

コンセプトブックですが、このコンセプトブックはいわば、市民の教科書のようなところではあるのですが、これを外部に向けてアウターコンセプトを作るとすると、自分が出雲と関わると、自分が出雲に行くとどんなことが起こるのかということを想像させるようなコンセプトブックが必要かなと思います。

事例にありましたが、私は和歌山で、過去30年前に世界熊野会議というのをやりまして、その時に決めた方針が、世界遺産登録の3つの方針になってます。熊野は「癒す地・充たす地・蘇る地」熊野にいけばこうなるよというのが、コンセプトブックに込められています。

そういった意味からも、出雲のコンセプトブックには、外部に対してどんなことを発しているかということの中に入れると強く発信できるのかなと思います。

もう1つだけ、コンセプトは、今世界が求めている平和ですね。その中心にあるのがこの出雲なのかなということ、私自身もこちらにお邪魔しながら常にそう考えているところです。

観光地経営につきましても、人づくり、特に観光地経営の悪の3M「ムラ・無駄・無理」なんです。シーズンにムラがあると無駄が起こって経営が無理になります。まずはシーズ

ンのムラを防ぐために波長の合うお客様を創造していく。そうすることによって地元資本の等価が生まれて、事業承継や新たなもてなすビジネスが発信されていきますので、ぜひそのようなことに繋げていただきたいと思います。

最後に戦略ですが、今挙げていただいている他にイメージ戦略とプロモーション戦略、それから商品戦略、この3つも実際にロードマップの中に、将来落とし込んでいただくと自走側に向かっていくのではないかと思います。私からは以上です。

副会長

ありがとうございました。続いて、Bアドバイザーよろしくお願いいたします。

Bアドバイザー

本日はお疲れ様でした。

先月、今月、毎月ほぼ出雲に来ています。今回も鷺浦に2泊したんですが、寒波に見舞われて、自分の行いを反省する今日この頃です。

観光計画の立案、副市長をはじめお疲れ様でした。私が去年、今年とプロデュースし、Aアドバイザーも含めて取組んでおります、「Izumo365」のプロジェクトでは情報発信やDXに関する取組をしていますが、その内容が一部盛り込まれて私も嬉しいなと思います。

特にデータ活用のところについては、今回計画を作られて、これから実行に移る上で、去年からSNSを整備しており、今年新たに「出雲ファンクラブ」を立ち上げました。今までアナログで運用していた「出雲旅」をデジタルに置き換えてLINEを作って、リピーターの可視化を図っています。現時点でLINEの登録アカウント数は3,000を超えています。

新たに地域OTAを実装しまして、ホテルで宿泊データ、メタデータを取って、面的に把握できるというところを整備したので、これからデータがどんどん出てきます。そのデータ活用については、実行ベースのところで、ポイント2つあると思っております。

1つは、計画立案の時に、誰に対して何をするというところをこのデータを使って計画立案しようというところと、イベントや施策の結果、もしくは中間状況がどうだということ、これらのデータを多角的に見ることによって、効率よく計画が進んでいくことを願って、予想できるように支援したいと思っております。

私が所属している、事業会社にも、そういうデータを使いながらやっているのですが、もちろんデータが答えを出してくれるわけではないので、そのデータに基づいて最短距離がどうかという。人と時間、お金は限られているので、限られたリソースで最大限の結果を出していくために、エラーの数を少なくして最短距離でこの計画の最終ゴールに向かっていくところをデータで参考にできればと思っております。お疲れ様でした。

副会長

ありがとうございました。Cアドバイザーよろしく願いいたします。

Cアドバイザー

最初から時間はオーバーします。

本日の話題のかなりはコンセプトブックの話だったと思います。短時間の間にしっかりと議論されて、まとめられていて素晴らしいと思いました。また、「作った後、どう用いるのか」という質問やコメントもありましたので、こういう風に活かしていければいいのではないのでしょうかというお話を少しだけさせていただきます。

今日も話題で出てましたが、バイブルとして使ってほしいです。自分たちがこの出雲という地域を語る時のコアな部分。そのまづストーリーを語る上で、今日ビジュアルのこともすごくおっしゃっていただいていたのですが、写真1枚で語る世界ってすごいあるので、そういう使い方をぜひ活用していただきたいと思います。

この計画書はデザインもしっかりされて、良いものにされてるなと思います。こういうクリエイティブの話をしますけれども、世の中に発信していくときに、発信していくものの出来栄がその地域のブランドを高めていく、どういうクオリティで発信していくのかという、そういう意味でのバイブルです。目線を今まではこのくらいでいいやとしていたのを、やっぱりみんなでここ目指そうという、そういう意味でのバイブルにもぜひしていただきたいと思います。

本日、事例をお持ちしています。昨日たまたま私、新潟にしまして、新潟県の県の観光に関わる、ステークホルダー200人ぐらいが皆さんでこれからやっていくぞという決起集会みたいなところでお話をさせていただいた時に事例として紹介したものです。今日の議論に近い話をしていました。

観光振興にとって非常に重要な話ですので共通すると思うのですが、観光振興は、自分たちの地域が何なのかということを、きちんと見極めるってことが非常に重要です。何かを見極めた上で、それに興味、関心がある人たちに対して届けるということがあるので、自分たちの強みが理解できてないと、スタートが切れないです。

私も長く瀬戸内で同様のことをやりました。今日、出雲のことをもっと知らなきゃいけないというご意見あったかと思うのですが、私もまず瀬戸内という地域を知るところからやりました。幸い瀬戸内海辞典、瀬戸内海の150年、発展や衰退両方の歴史をまとめたような書籍、それをまとめられた学校の先生などもいらっしゃって、そういったところから学ぶということをやりました。しばらくこれを抱えて仕事をしていました。

それやっていくと、瀬戸内エリアの鳥観図ですが、これは大正15、16年に生まれたものです。吉田初三郎、この方の鳥観図です。これは大正15年のものですが、どういう場所だったのかがこと細かく詳細に、緻密に描かれています。そういうのを見ていくと、この地域が何だったのかはよくわかると。拡大すると見えにくいかもしれませんが、白い点線はクルーズ船を示しています。その昔、瀬戸内海がクルーズのメッカだったという話は、

結構古い方から、そういう時期もあったと昔話として聞いたことあったのですが、実際にこの絵を見た時に本当だったのだなと思いました。事実 80 航路くらいありました。住友財閥は瀬戸内の出身なので、瀬戸内財閥系の大阪商船というところがまとめて、落ち着いていったのですが、そのぐらいクルーズのメッカとして栄えた。

そういう背景もあって、日本で最初の国立公園に指定されたのは、そういう盛り上がりだけでなく、最終的にはこの世界に誇れる多島美景観にありました。その多島美景観をドイツの地理学者のリヒトホーフエンという人が、このように表現をしていたと「こんな優美な世界は、広域にわたってこんな景色が広がるところはない。いずれここが、世界の人たちの、注目を浴びることになるだろう。」こういう場所だから日本で最初の国立公園にしていこうというような動きがあって、初めて国立公園として指定され、第一号になりました。

我々のオンリーワンは何なのかというと、世界一と評された多島美景観ということです。何が言いたいかというと、自分たちの強みとかオンリーワンもしくは他と違うと言えるものは何なのかということをしつかり語れるようにする。これが確認できたので、そこに響く旅行者にどう情報を届けていこうか、どんな観光地にしていこうかということから、スタートしたわけです。

私もそういうことをずっとやってきているので、今日も話題に出ました紀伊半島のエリアにも関わっています。A アドバイザーがいらっしゃる中で紀伊半島を語るのは大変恐縮なのですが、世界に対して紀伊半島をどう表現するか、結構悩むんです。世界遺産に登録されてる巡礼路は世界に 2 つしかないです。サンティアゴの巡礼路とこの紀伊半島です。こういう言い方で掴みとしてはありかなと思うのですが、本当に旅慣れた人たちからすると、それよりも、「そもそもなんでそんな場所になったのかが知りたい」とそういう話になるわけです。

サンティアゴの巡礼路は、サンティアゴ＝聖ヤコブに由来しています。聖ヤコブというのはイエスキリストの 12 使徒の 1 人です。そのヤコブがスペインにキリスト教を布教して、そのヤコブのお墓がコンポステーラにある。なので聖地として巡礼しようという流れができると。それに代わる、その紀伊山地の理由は何なのか、これを明らかにしなきゃいけないというですね。

出雲のコンセプトブックのような視点で、作られたのがこのコンセプトブックです。

そもそも紀伊山地がなぜできたのか、それは 1400 万年前に遡るのですが、阿蘇のカルデラをはるかに超えるような、カルデラがありました。もう今は浸食されて形は残ってないですが、それだけ険しい山岳地帯ですから、護岸、奇岩、大滝、先ほど畏怖という言葉がありましたが、本当に畏怖があって畏敬の念があって、最初はそれから始まり、それが信仰に変わっていった、そういう場所なのです。それがあちこちに残っているのです。

那智の滝も、まさにその象徴ですし、修験道の聖地である玉置神社、標高 1000 メーターのところにある神社ですね。そして高野山、天空の宗教都市です。いずれも、そこに山地ができたから、できた霊場だと。それを巡る道が作られたのではなく、人が通るので結

果それが道になったという、そういう場所なので、その道を、ある意味象徴的に描いて、それで海外を含めた旅行者の方たちに発信していこうと。それをブックの形でまとめたのが、先ほどご紹介したものです。こういう考え方が、観光振興や旅行において非常に重要だということを、まずお伝えしたかったのです。

その上で、どう使っていくかという話ですが、使い方は皆さんで色々な形に作り変えていけばいいと思います。このコンセプトにおいて重要な部分を活かしながら、市民向けや観光関連事業者向け、もしくは外部向けなど、相手に合わせた形にすることが大切です。大事な部分は忘れずに残すことが重要です。

そして、一つ大事だと思うことを最後にお伝えします。これは新潟の例です。昨日は新潟でお話ししてきましたが、新潟といえば、お米がおいしい。酒蔵の数も日本一です。さらに、山も川も海も島もあり、非常に自然に恵まれた場所です。

例えば、星野リゾートも、「これから文化観光も大事だが、自然観光が非常に重要になってくる」と発言しています。これは、世界や日本の旅行トレンドを見ても、今後ますます傾向は強くなります。ここに掲げているのは、そのキーワードの一部ですが、今後、自然観光は中心的なテーマになっていくでしょう。

そうすると、新潟には海も島もあり、それを活かせるのではないかという話になります。しかし、「自然はどこにでもあるから、差別化が難しいのでは？」と、これは自分たちの持つ自然に対する理解が浅いため、他と差別化できない、見極められないことに起因しています。また、それを活かして何ができるかという具体的なイメージが持てないため、ネガティブな思考になってしまいます。

たとえば、水の入ったコップを見て、「半分しか入っていない」と思うのか、「半分も入っている」と思うのか。ポジティブに捉えれば、「あと半分足せばいい」となりますが、ネガティブに考えると、「半分しかないから意味がない」足りないところばかり見てしまっています。重要なのは、この「半分の価値」を正しく理解し、それをどう活かすかです。

その典型例が、こちらの事例です。「山はどこにでもある」と思っている人に対して、私はこう伝えます。例えば、十日町の山深いところにある「里山十帖」という宿は、冬は2メートル以上の積雪があります。そもそも、なぜ山があるのか。しかし、そこにあるのは、単なる「山」ではなく、人々の暮らしや文化、風土を感じられる体験があれば、特別な山になるし、宿になる。こうした宿があれば、山が活かせるということがあるわけです。

自分たちの地域には川があると。ただの川だったら、皆さん何も思わないかもしれないですが、新潟の「嵐溪荘」という温泉宿では、春から夏にかけての雪解け水が美しい清流となり、その景色を楽しむことができます。その畔で新緑の景色の中でゆっくり過ごすことができる旅なんです。このように、川の価値を理解し、そこに特別な体験を提供することで、「ただの川」ではなくなるのです。これで集客、いろんな人が来てくれます。なので自分たちの地域の価値を見極めなければならない。

佐渡の事例では、ただの海岸の岸壁ですが、そこにこういうスペースを作るだけで、ここに来て、佐渡を感じたり、ずっとこの景色を眺めながら過ごしたいという人たちが出て

くるはずなんです。

新潟に関しては、私は「暮らし」というテーマで整理しています。豪雪地帯としての暮らしや、自然と共に生きる文化、それらが新潟のアイデンティティです。それを活かすことで、地域の魅力を発信できるのではないかと思います。

こういう活かし方をコンセプトブックで明らかにして、ツールではなく、描かれたコンセプトをそのように波及させていくことを、ぜひ今後の使い方として、想像しながら、今回も出来上りを楽しみに皆さん待っていただければいいんじゃないかなと思います。長くなりましたが、ありがとうございました。

副会長

どうもありがとうございました。本当に4回にわたるこの戦略会議の中で、先生方からは毎回貴重なご意見をいただくんですけど、改めてAアドバイザーから、観光とは何かについていうことを、もう1回考えることの必要性を教えていただいたような気がします。

また、Bアドバイザーからは、これからのDX化の中で、データの活用がいかに大切なのか。そのためには、この観光基本計画を活かすのもダメにするのも、やはりそのデータの活用というのが大きな鍵を握っているというのを感じました。

最後にCアドバイザーからは、皆さんも感じていたように、まず地元の人間が地元をしっかり知って、その価値を作り上げていくことの大切さを改めて教えていただきました。出雲の方はネガティブな方が多いですが、ポジティブにとらえることは本当に心に残りました。本当に長期間にわたってご指導を賜りまして、ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

時間の方も参りましたので、ただいまのアドバイザーの方からのアドバイスを受けられまして、何か事務局の方でご見解がありましたらお願いいたします。

事務局

今日も貴重なご意見、さらなるインプットを与えていただきまして、ありがとうございました。それにつきます。

本当にこの皆様方のご意見を活かして、どんどん吸収しながら、それがやっぱり出雲市全体にそういった考え方が広がるように、皆様方と一緒にやれたらいいなと思っております。よろしくお願いいたします。

副会長

本来ですと、ここで会長がまとめの発言をしなければなりませんが、ご事情によりご欠席でございますので私は皆さんへの感謝を改めて申しあげまして、まとめの言葉に変えさせていただきますと思います。

各界から、それぞれのお立場で忌憚のないご意見を4回にわたって、さらに詳細な会議もありましたので、実際は5回わたってご議論いただきました。それぞれの立場のものの

見方で、この思いもよらぬ見解をたくさんいただいて、またそれをうまく汲み取りながら、公平公正忠実に受け取りながら、立派な叩き台を構成していただきました事務局の皆さんに心よりお礼申しあげたいと思います。ありがとうございました。

一言、副会長として何が言えるかと言いますと、皆さんの意見と重なってくるかもしれませんが、今出雲は片一方でこうして観光戦略を立てて多くの方を受け入れようというもてなし心を持ちながら、一方であらゆる側面において大きく変貌を遂げております。風致の行政あるいは風致の保全もかなり遅れている面が見えつつあると思っております。また、文化財の保全も随分頑張ってもらっていますが、その活用となると果たしてどうなのか。このあたりは私たち市民がもう少し危機感を持って、1回失ったら戻らないです。1度失ったら戻らないということを考えながら、そのトータルの中で観光を基軸に出雲をみんなの力で盛り上げていけたらなと思っております。本当に長い間ありがとうございました。

最後に、会長から先ほど会議の直前にメッセージをお預かりしております。読み上げさせていただきます。

私の体調管理の不徹底から体調不良になり、大切な最終回のこの場にはいないことを、委員の皆様、関係者の皆様にお詫びいたします。さて、昨年の6月6日に第1回の会議を開催し、第2回の会議では、私の会長としての運営の不手際で追加の会議を持たせていただきました。実質、本日まで5回の審議をいただきました。その中で、様々なご意見をいただきました。

私たちのこの出雲市が、歴史、文化はもとより、観光地としての計り知れない潜在能力を有していること、それはこれからの出雲市の大きな成長産業に育て上げなければならないことを皆様と共有することができました

そして、本戦略会議におきまして、これからの方向性、戦略の基礎が構築できたと思います。これからは、これをいかに着実に、タイムリーに進めていくかです。そのためにも、皆様には今後ともそれぞれの立場でご理解とご協力をいただかなければなりません。

結びになりますが、最後まで至らぬ会長でしたが、関係者の皆様に心より感謝申し上げますとともに、皆様の今後のますますのご活躍をお祈り申しあげ、お礼のご挨拶といたします。ありがとうございました。

令和7年1月29日、出雲観光戦略会議会長よりお預かりいたしましたので、ご報告いたします。

それでは、長時間にわたりありがとうございました。突然のことだったので、拙い司会ではございましたので、お許しをいただきたいと思います。それでは議事の進行を事務局にお返しします。

5. その他

事務局

副会長、委員の皆様、それからアドバイザーの先生方本当にありがとうございました。
最後に副市長からお礼の挨拶をいたします。

事務局

皆様、本当に最終回までどうもありがとうございました。

本当に皆様方からのご知見、ご見識というものが結集されて、事務局といたしましてはそれらをまとめたに過ぎないというような思いでおります。コンセプトブックについても然りでございまして、今までたくさん出版されている出雲に関するもの、先ほどCアドバイザーからも瀬戸内での色々な辞典がというお話がありましたが、そういったもの、あるいは観光協会のホームページにもたくさんの方が掲載されています。そういった色々な情報を基に少し再構成してみたというものでございますので、全てここに今あるものを、今後に向けて、少し方向性をまとめさせていただいたと考えております。

本当に皆様方のご知見、そして内部にはない知見として、アドバイザーの3名の方から、本当に多大なる、講演も含めまして、ご助言をいただきましたことに、心より御礼申しあげます。本当にありがとうございました。

これから実行段階に入っていくにあたりまして、改めて整理しながら、1個1個たくさんやるがありますが、着実に進めていきたいと思っております。

手順を間違えると混乱してしまうとか、残念な気持ちになってしまうということもあり得ますので、そこは期待通りの、それぞれの皆さんの期待通りのスピード感というのが、どれぐらいになるかわかりませんが、1つ1つ着実に整理をつけながら、進めていきたいと思っておりますので、その辺りもご理解、またご協力いただければと思っております。よろしくお願いいたします。

それから、皆様方におかれまして、個々の活動の中で、自分自身が作った計画だというぐらいの気持ちで、方向性に沿った取組を推進していただければ本当にありがたく思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本当に約半年間にわたりまして、3時間超に及ぶ長時間の大変な会議にご出席いただきまして、またご尽力いただきまして、本当にありがとうございました。

以上でお礼のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

6. 閉会

事務局

名残り惜しい感じもしますが、以上を持ちまして第4回の観光戦略会議を終了いたします。皆さん、本当に長い間ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。